

## 2022 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	<b>COVID-19 感染拡大の責任帰属に関する実証的分析 —パンデミック下の分断のリスクと原因を探る—</b>
キーワード	① スケープゴート、② 責任帰属、③ 量的調査

### 研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏名	シモクボ タクヤ 下窪 拓也
配付時の所属先・職位等 (令和4年4月1日現在)	新潟医療福祉大学 健康科学部・助教
現在の所属先・職位等 (令和5年7月1日現在)	順天堂大学 スポーツ健康科学部・助教
プロフィール	主に、統計調査やオンライン調査によって収集したデータを使用し、移民や外国人に対する差別や偏見、そして、日本社会の運動習慣やスポーツ参加の格差と言った社会の分断の実態および分断の原因に関する研究をしている。

### 1. 研究の概要

本研究では、日本全国を対象に行ったオンライン調査から、新型コロナウイルス感染拡大第8波発生の責任が帰属される対象および、責任帰属の対象者選定を規定する要因の検証を行った。これまでの研究では、感染症の蔓延や経済危機といった社会的危機が生じた際に、移民や民族的マイノリティといった特定の人々がやり玉にあげられることが確認されている。従来の研究では、新型コロナウイルスの感染拡大期に非難の対象となる人々の特性は明らかにしてきたものの、非難の対象を選択する側の人々の特性は、十分に解明されていない。そこで、本研究では、新型コロナウイルス第8波の原因を非難される対象と、対象選択者のパーソナリティの関連を検証した。特に、本研究では、非難の対象として、日本に定住する外国人、外国人観光客、そして、日本人の若者を取りあげた。これらの人々を対象とするのは、第8波の発生と訪日外国人が増加した時期が重なること、定住する外国人は差別や偏見の対象とされる傾向にあること、日本では若者が新型コロナウイルスの感染拡大の原因として非難されてきたことから、非難の対象として認識される可能性が高いためである。非難対象選択者のパーソナリティには、ナショナルアイデンティティ（ある人を真の日本人とみなすために必要な条件に関する認識）、感染嫌悪（感染症に対する嫌悪感）、権威主義（権威には従うべきという価値観）を扱った。

### 2. 研究の動機、目的

新型コロナウイルスの蔓延は、公衆衛生上のリスクだけではなく、差別や対立などの分断といった社会的なリスクも生じさせた。社会的危機の最中に生じる人々の分断は、特定の人々がスケープゴートとされるため生じるものであることが、従来の研究では指摘されてきた。しかし、スケープゴートの実態は、まだ十分には解明されていない。社会的な危機が生じた際に、人々の分断を防ぎ、平和で持続的な社会の実現を果たすためには、スケープゴートの実態を解明し、その予防策を講じる必要があると考え、本研究の着想に至った。上記の課題達成に向けて遂行される本研究の目的は、新型コロナウイルス感染拡大第8波の発生原因としてやり玉にあげられる人々と、スケープゴートの対象を選択する人々の特性を解明することである。

### 3. 研究の結果

研究の結果、以下のことが明らかになった。まず、ナショナルアイデンティティと感染嫌悪が強い人は、新型コロナウイルスの感染拡大によって経済的損失を経験した場合のみ、日本に定住する外国人を非難する傾向が確認された。次に、感染嫌悪は外国人観光客と若者への非難を増加させ、この効果は、経済的非難を経験した人において、より強くなった。最後に、権威主義は外国人観光客、日本に定住する外国人、若者に対する非難と関連していた。これらの結果から、個人のパーソナリティによって、非難の対象が異なること、そして、非難する理由も異なる可能性が示唆された。

今回の結果を踏まえ、社会的危機の最中で、人々の分断を防ぐには、社会的危機の原因と特定の人々が結び付かないよう対処する必要がある。たとえば先行研究ではメディアの表象のしかたが、新型コロナウイルスの発生原因に関する認識に影響を与えることが示されていることから、メディアを介した対応策が有効であると考えられる可能性がある。

### 4. 研究者としてのこれからの展望

私は、これからも差別や偏見、そして格差と言った、社会に存在する分断を対象に研究をすすめ、分断を生じさせる原因の解明や、その解決策を模索していきたいと考えております。そして、いずれは、社会の実態の解明および社会が特定の状態を形成する因果のメカニズムの解明に挑戦したいと考えております。

### 5. 支援者（寄付企業等や社会一般）等へのメッセージ

研究遂行のための支援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。今回の私の研究は、新型コロナウイルス感染拡大期における人々の意識を対象としたものであることから、新型コロナウイルスの感染拡大が世間から注目を集めている時期に実施する必要がありました。本奨励金によって調査が実施できたことで、感染症拡大期の人々の意識という非常に貴重なデータを収集することが出来ました。感謝申し上げます。今回の研究で得られた貴重なデータを分析し、パンデミックなどの社会的危機の下で生じる分断のリスクの解明および、その予防策の考案へと発展させていきたいと考えております。このことは、差別や偏見を研究課題とする私自身のステップアップに加え、分断の予防策を講じることは、平和で持続的な社会の実現に貢献するものであると確信しております。今回の研究で得られた知見を基盤とし、さらなる発展的な研究へと邁進してまいります。